

---

**コース名：The WWW Virtual Libraryを利用した英語講読**（瀬田智恵子）
 

---

**対 象：**英語講読を担当する大学教員

**目 標：**学部3，4年生程度の英語講読を担当する大学教員が、授業におけるコンピュータ活用の一環として、The WWW Virtual Libraryを活用した授業計画を計画・立案する機会を提供する

**研修時間：**6か月間の中の3回（センターにおける集合学習1回、SCSによる集合学習2回）

**研修内容：**

**研修方法：**

- |  |             |         |
|--|-------------|---------|
| 1. 第1回（於センター）  | 9：30－17：00  |         |
| (1) 英語講読の授業に関する教員の課題   |             | 討議（参加者） |
| (2) 大学の授業におけるコンピュータの活用に関する諸外国の事例を知る（イギリスのCTI Human Services、CTI History、Archaeology & Art History等におけるウェブ上のArchive活用の事例を中心に） |             | 講義（講師）  |
| (3) The WWW Virtual Libraryのネットサーチと知見の報告   |             | 実習（参加者） |
| (4) 担当する授業におけるThe WWW Virtual Library活用案の作成と効果の予測  |             | 実習（参加者） |
| <オプションナル> 第2日目   | 9：30－12：00  |         |
| (5) 必要なスキルのトレーニング（ネットサーチの方法を中心に）   |             | 実習（参加者） |
| 2. 第2回（第1回研修後1か月後にSCS上で）   | 13：00－17：00 |         |
| (1) The WWW Virtual Library活用案に基づく授業の実践報告  |             | 発表（参加者） |
| (2) 授業実践における問題点と課題、改善案に関する意見交換   |             | 討議（参加者） |
| (3) 授業におけるThe WWW Virtual Library活用に関する留意点   |             | 講義（講師）  |
| 3. 第3回（第2回研修後1か月後にSCS上で）   | 13：00－17：00 |         |
| (1) The WWW Virtual Library活用事例の実践報告（その2）  |             | 発表（参加者） |
| (2) 授業におけるThe WWW Virtual Library活用がもたらした効果  |             | 討議（参加者） |
| (3) 授業におけるThe WWW Virtual Library活用の阻害要因   |             | 討議（参加者） |
| (4) 授業におけるウェブ上のArchive活用を促進するために必要なこと  |             | 講義（講師）  |

**研修評価の観点：**

1. 教員の意識の変化（ウェブ上のArchive利用を通してコンピュータの活用を自分の課題として受け入れることが出来る）
2. 教員のコンピュータ活用能力の向上（ウェブ上のArchiveの活用方法のノウハウを習得する）
3. 授業の改善（The WWW Virtual Libraryを活用することで、幅広いトピックを選択することが出来る。学生のコンピュータへのアクセスの機会が促進される）

**ラショナル：**

国際化時代の要請等を反映して、コンピュータ活用能力と外国語（英語）の教育が重視され

る中で、コンピュータ教育に関連する授業を必修とし、英語講読の授業に配慮している大学は少なくない。学生も自前のコンピュータを用意することが一般化しているが、大学の授業全体から見ると、コンピュータ購入の投資に見合った活用が個々の授業で行われているとは言いがたい。この研修プログラムでは、「ある程度の現代的な話題性を持ったトピックであること」、「1つのトピックの長さが長文過ぎないこと」、「新聞記事に比較して記事の残存期間が長いこと」等の特長を持つThe WWW Virtual Libraryに着目して、ウェブ上のArchiveを活用した英語講読のプログラムの計画・立案、実践、評価を目的としている。このようなプログラムを実践することにより、学生の語学力の賦与という授業目的に加えて、①学生のコンピュータ・リテラシーを維持する、②学生にウェブ上のArchiveの活用方法を習得させる、③教員に対して授業におけるコンピュータ・リテラシーを喚起する、④教員がウェブ上のArchiveを活用した授業計画の作成に習熟する、等の効果を期待できる。

---

**備 考：**

1. 対象人数は20人程度。
  2. 英語講読の担当領域は問わない。
  3. SCS上での研修の際は、当日の配布資料は事前に各サイトに送付しモニターによる視聴の不利を補完出来るようにする。
  4. 「討議」では、必要に応じて講師が助言も行う。
  5. 上記の案では、計3回の研修としたが、1回の時間等を勘案して回数を変えることも可。
-